

令和6年度 学校評価

1 スクールミッション【学校経営方針】

「自律 協同 創造」の理念のもと、生命を尊重する心や他者を思いやる心、心身を鍛える態度、これからの時代を生き抜く力を備え、自らの未来に向かって果敢に挑戦し、自立して社会に貢献できる人材を育成する。

2 スクールポリシー【3つの方針】

育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)

- ① 未来を切り拓く力を持ち、生涯を通して学び続ける生徒を育成する。
- ② 基礎的・基本的な知識を身につけ、社会の変化に対応できる生徒を育成する。
- ③ 生命の尊重、他者を思いやる心を持つ、人間性豊かな生徒を育てる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

- ① 生徒の興味・関心や進路希望に応じた教科・科目等を配置する。
- ② 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」等に積極的に取り組ませる。
- ③ 将来必要となるコミュニケーション能力・課題解決能力や自己管理能力の育成を図る。
- ④ 生徒が主体的に学習に取り組むため、外部講師の活用や近隣の企業・大学と連携を図る。

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

- ① 自己の志に向かって挑戦し続け、自律をめざす生徒を募集する。
- ② 対話や協同を大切にする活動によって、多様な他者を尊重する生徒を募集する。
- ③ 変化に富む社会に臨んで、創造的に自らを活かそうとする生徒を募集する。

【評価点について】 昨年度:5～2の4段階 今年度:4～1の4段階 →各項目の左列は素点の平均 右列は左列を1.4倍した値	【生徒・保護者・教員】 A:5.0～4.2 B:4.1～3.3 C:3.2～2.4 D:2.3～0	【総合評価】 A:5.0～4.0 B:3.9～3.5 C:3.4～3.0 D:2.9～0
---	---	--

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

令和5年度は、アンケートの回答が「5～2」の4段階で、「1」は「わからない」という選択肢になっており、評価平均に「1」を加えずに平均値を算出していた。今年度は、すべて「4～1」の4件法で質問を行い、評価については昨年度までの「5～2」の平均値と比較するために、今年度の「4～1」の平均値を1.4倍した値を用いて比較検討した。
評議員からは、アンケートの実施および結果の提示について適切であるとの評価の声をいただくことができた。数年前からFormsによるWebアンケートにより実施しているが、特に保護者についてはアンケートの回答数が減少している。周知の方法などを工夫し、多くの回答数が得られるよう努めたい。

5 総合的な学校関係者評価

・評議員を務めて3年目となり、本校に愛着と責任感がある。
・本校のイメージとして、やりたいことがある子にはいい学校だが、専門学校への進学が多く、大学進学は難しいというイメージがある。進学実績のアピールや広報の充実が必要。
・制服について、女子はリボンがいいという声を聞く。リボンを選択できたり、ブレザーの三つボタンは古いので、二つボタンにするなど検討できるならしてみてもどうか。
・人気が出れば、学力レベルも上がると考えている。人気が出るためにどうしたらいいかを考えたときに他校との差別化をはっきりと打ち出すことも必要ではないか。例えば、ハングルの授業が開講されている特色を活かし、修学旅行先を韓国にするなどは一案ではないか。
・「考える力」をつけさせつつためには、ある程度は強制してやらせるところは必要ではないか。
・課題研究発表会に約10年ほどお邪魔しているが、内容が年々良くなっている。
・総合学科発表会もとてもよかったのだが、来校者が少なくもったいないと感じる。自分の塾の生徒も参加していたのだが、展示発表の案内がわかりにくかったり、時間が長かったりしたため途中で帰ってしまった生徒もいた。
・以前は塾生が、「今津でいい」と言っていたのが、今は「今津がいい」と言うようになり、明らかに変化を感じる。本校のいいところをもっと外に見えろと良い。
・部活動単位で発信しているSNS(Instagram等)がとても好評である。
・アンケートの数値が向上しているのは、先生方の努力の賜物である。数値の経年比較をきちつと提示してるところなどは適切であると感じる。
・課題研究については、先輩の先行研究を今よりも参照しやすくなる仕組みがあってもよいのではないか。
・SNSについては、情報教育いわゆる「情育」をもっとすべき。そのうえで、リアルの対話の機会をもっと増やしたいところ。生徒の力がついてきたら、ぜひディベートを教育活動に取り入れてほしい。
普段はなかなか高校生と接する機会がないが、課題研究発表会に参加してみて、本校のよさがよくわかった。その特色をもっと広く知らせるべき。
・今は変わっていく時代だと感じる。「例年通り」や「前年通り」ではなく、新しいものをどんどん取り入れていくことも必要。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

観点	No.	質問項目	生徒評価 508名			保護者評価 183名			教員評価 46名			総合評価			担当	評価	改善策など
学校生活	1	本校の校訓を知っている。	3.3	4.6	A	2.5	3.5	B		3.1	4.3	A	総務	生徒は校歌を3番まで歌うようになって、歌詞の中にある校訓を意識する機会が増えた。	さらに校歌を定着させるために工夫する。保護者に対してはHPなどを活用して周知していきたい。		
	2	学校に来るのが楽しい。	3.1	4.3	A	3.2	4.5	A		3.1	4.4	A	各年次	【3年次】年次進捗とともに登校時間の笑顔が増えてきたように感じられる。 【2年次】喜べるところとそうでないところがある。出席状況は比較的安定しているが、学習への意欲や進路の具体的な見通しについて進めているかを検証しなくてはならない。 【1年次】登校時、大きな声であいさつできる生徒が増えてきて嬉しく感じている。	【3年次】学校に於いて、生徒の居心地のいい空間を増やす。 【2年次】2年次の学習範囲が受験の中軸になるので、まずは学習の質を高めたい。生徒には2年次の授業を振り返って学習し、基礎を固めるように指示している。3月からは個々の進路計画を立てて、受験を実感できる勉強に取り組ませたい。家庭学習も必要だが、家庭のみならず場所を選ばないで取り組む工夫をしてほしい。 【1年次】生徒達がそれぞれ居心地よい場所ができるような関わりを増やしていきたい。		
	3	学校での出来事を家庭でよく話を する。	2.9	4.1	B	2.9	4.1	B		2.9	4.1	A	各年次	【3年次】家族内での共通の話題の一部が学校であることが見て取れる。 【2年次】情報は問題の改善につながる ので、色々話していただくとありがたい。 逆に話さないことは年齢的にもよくある ことだと思われるので、年次でも一喜一 憂はせずに観察を続けていきたい。 【1年次】ご家庭において学校での様子 が分かりにくいと思われる。	【3年次】学校行事や配布物が家族の話題の一部となるようミマ モルメ等を頻繁に利用する。 【2年次】何らかのご心配事やとお問い合わせにつきましては電 話やメールで知らせいただけると対応したい。進路についての 不安を抱え始める時期なので、家庭でお話を聞いていただいた り、サポートいただけると助かる。年次では面談等も必要に応じ て実施する予定。 【1年次】学校での出来事がご家庭の話題に上るように、食堂の メニューや奨学金の事までミマモルメの活用を増やしたい。学年 通信も増やせるようにし、保護者の方に学校の様子が伝わるよ うにする。		
教科指導	4	学校はわかりやすい授業を行って いる。	2.7	3.8	B				3.0	4.2	A	2.7	3.8	B	教務	教員と生徒との間で認識の差が若干見られる。	授業改善のヒントを得るために、他教科の先生方の授業も見学 するような研修を行った。今後も継続して行う。
	5	本校は、ICT機器を活用した授業 を行っている。	2.9	4.1	B				3.0	4.2	A	2.9	4.1	A	教務	改善の余地はあるが、ICT機器を活用し た授業が実施されていると捉えている。	ICT機器を効果的に活用する事例を個人・全体で研修する機会 をDXプロジェクトと併せて実施したい。
	6	家庭学習の時間が昨年より増えて いる。	2.6	3.6	B	2.4	3.4	B	2.9	4.1	B	2.6	3.6	B	教務 各年次	【教務部】生徒の学習習慣の確立ととも に、意識付けと興味関心への関連付け が必要である。 【3年次】3年次になり、家庭学習に積極 的に取り組む生徒が増えたことが見て 取れる。 【2年次】学習意欲が減退しているのは 残念。学年での取り組みが伝わってい ない。予習を含め主体的な学習が不足 してる。ただ、各教科からタブレットに課 題の指示が出ているので何らかの学習 は実施しているところである。 【1年次】週2回の英単語テスト、国語小 テストなど年間通じて実施した。また折 に触れて進路への意識が高まるよう指 導を行った。	【教務部】授業と家庭学習のリンク、講習・補習の連絡方法、授 業の始め方や終わり方を工夫する。 【3年次】明確な進路目標を早い段階で持たせる。 【2年次】2年次の学習範囲が受験の中軸となるため、学習の質 を高めていきたい。生徒には2年次の授業を振り返って学習し、 基礎を固めるように指示している。3月からは個々の進路計画 を立てさせ、受験を実感できる勉強に取り組ませたい。家庭の みならず場所を選ばないで取り組む工夫をしてほしい。 【1年次】引き続き進路への意識付けに繋がる指導の機会を増 やして行きたい。進路実現の意識から学習習慣に繋げていき たい。
	7	講習・補習・個別指導などを積極的 に受けている。	2.0	2.8	C	2.2	3.1	C	2.9	4.1	B	2.1	2.9	D	教務 各年次	【教務部】教員・生徒と保護者との間で 大きな認識の差が見られる。 【3年次】進路実現のために、年次で企 画した講習・補習・個別指導を積極的に 受ける生徒が増えた。 【2年次】1～2年次を振り返って学習の 自主性についてはうまく育っていないと 感じる。講習・補習への参加や個別の指 導は強制ではできないこともあり、成果 が出なかった。 【1年次】夏の補習を全員受講、定期考 査前補習など「学校で勉強する」機会を 増やした。	【教務部】講習・補習に関して、連絡や募集方法を工夫し、生徒 の進路目標や興味・関心に応じた設定ができているか常に検討 していく。 【3年次】学校で行う講習・補習・個別指導の報知を積極的に行 う。 【2年次】個別具体の進路目標に合わせて進めていきたい。教 務部とも相談しながら時期を決めた集中講習や受験科目に合 わせた補習を計画する中で個別対応を行いたい。受験期が異 なる生徒への配慮も行い自分の目標に集中してチャレンジでき るように学習環境を整えたい。 【1年次】塾で学習する生徒も多い為、補習の案内をミマモルメ など利用し、ご家庭に伝わるようにするなど工夫して行いたい。
	8	部活動と家庭学習の両立ができて いる。	2.6	3.6	C	2.6	3.6	B	2.8	3.9	B	2.6	3.7	B	生指 各年次	【生徒指導部】普段の部活動時間やテ スト前の活動制限等を設け、家庭学習 時間を作るシステムはあるが、時間をど う使うかが課題だと感じる。 【3年次】部活動を3年間続けた生徒は、 文化部・運動部を問わず、また個人の 習い事などとも両立できていたように見 える。 【2年次】部活動と学習の両立は大変な ことであるが、そこから得られる教習・健 康・活動力や非認知能力は生涯にわた って財産となるため、可能な限り継続 してほしい。学校でも部活動単位で面 談・保護者会を行ったり、学習日をと ったりして配慮しているが、なかなか成果 が上がらない。 【1年次】部活動・勉強・習い事の両立に 奮闘する姿が多かった。中学と違った環 境に慣れない様子もうかがえた。	【生徒指導部】部活動の活動内容については顧問や生徒でどう あるべきかを考えていけるとよいと思う。学校を出てからどのよ うに時間を使うのかを、様々な教育活動の場面で生徒に働きか けるとともに家庭との協力もしていきたい。 【3年次】部活動のみならず、稽古事や塾との両立のための時間 の使い方の指導を増やす。 【2年次】家庭だけに限らず、あらゆる場面での学習形態が要求 さる。タブレットを使うことで課題の提出も出先からが可能である し、考査前には自主的な学習会を学校で行っている部活動もある 。あとは精度とスピードをあげてくれれば負担は徐々に少なく なっていくと思われる。学習上位者のほとんどは運動部の生徒 である。部活動が負担と考えるより授業を大事にして集中して 取り組んでもらいたい。 【1年次】部活動・勉強・習い事・余暇の時間などのタイムマネジ メントができるように指導していきたい。

進路指導	9	多様な選択科目の中から自分の進路・適性に応じたものが選択できている。	3.1	4.3	A	3.0	4.2	A	3.1	4.3	A	3.1	4.3	A	教務	多くの科目が設置され、多様な選択ができることが、肯定的に捉えられている。	生徒の進路目標、興味・関心や時代の変化に対応した科目が設置できているか、常に検討していく。
	10	進路に関する適切な情報が提供されている。	3.1	4.3	A	2.5	3.5	B	3.2	4.5	A	3.0	4.1	A	進路	3年次の先生方は個別指導を熱心にされていた。1・2年次はキャリア教育を中心に進路指導がなされた。	3年次の先生方と協力しながら、情報提供をしていきたい。
	11	模擬試験等を継続的に受け、事後の学習に生かしている。	2.5	3.5	B	2.3	3.2	C	3.2	4.5	A	2.5	3.5	B	進路各年次	【進路指導部】年次の段階や、生徒によって差があるので、その差を少しでも減らしたい。 【3年次】十分に活かせていた。 【2年次】受験校を照準に入れた模擬試験の事前指導・実施と弱点克服のための振り返り等から受験本番へのアプローチを行ってきたが、成果はまだ現れていない。 【1年次】1学期から模試の意味や意義を折に触れて話をし、全員受験するよう指導した。	【進路指導部】復習の重要性を生徒に伝える。授業で、生徒のレベルに応じた振り返りをする。 【3年次】1年次より、模試やGTECの意義を、機会をとらえて指導してきた。 【2年次】定期考査とあわせて模擬試験の計画を立てさせて取り組みませたい。全国を視野に入れた自分の学力の位置づけを充分に把握させ、あわせて自分に足りない学力に気づいて補強し、あきらめない目標設定を行う。 【1年次】幅広い進路実現ができるように、引き続き模試の意味や意義を子供たちに説き、粘り強く指導していきたい。
	12	進路校外学習などを通して、職業観・勤労観が身に付いた。	3.0	4.2	A	2.5	3.5	B	3.4	4.8	A	2.9	4.1	A	推進	1年次は7月の進路校外学習で6大学に分かれて訪問をし、大学の雰囲気を感じ合うとともに2年次以降の時間割作成に向けてよい機会となった。また、職業人ガイダンスや職業人インタビューを通じて職業生活を見据えた進路選択について考えるきっかけとなった2年次以降は探究学習の検証作業をする際に、地域に出てインタビューや活動に参加した生徒が増えた。	1年次の生徒が科目選択をする際、より多くの情報を得ることができるよう次年度が6月に学部ガイダンスを行い大学での学びと科目の関連性について理解させたい。2・3年次の探究学習では進路に関連したテーマを選んだ生徒については、研究を進めるなかで施設訪問やインタビューを行うよう声掛け等していきたい。
	13	「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「課題研究」など生き方について考える機会が多い。	3.1	4.3	A	2.6	3.6	B	3.4	4.8	A	3.0	4.2	A	推進	総合三科目の授業を通して進路や興味・関心の高い分野について探究学習を行っているため生徒の評価は高く、多くの生徒は総合三科目の授業を前向きにとらえ取り組むことができている。しかし、例年に比べて保護者の評価は低かった。	46回生以降、2年次の間にテーマ設定から論文作成を行うため、生徒は早めに進路や職業について考える機会となっている。保護者に対しては学校通信やブログを活用して授業や生徒の様子、感想等をしっかり発信していきたい。
生徒の自主性	14	総合学科での学習を通して、課題設定や課題解決の能力が伸長した。	2.9	4.1	B	2.5	3.5	B	3.0	4.2	A	2.8	3.9	B	推進	1年次はグループで、2・3年次は個人で課題解決型の学習に取り組んでいる。年次が進むにつれ着実に力がついていると考える。2年次ではテーマ設定に悩む生徒が多く苦労しているため、テーマ設定の段階で同じ分野の人とグループワークを取り入れるなど協働学習にも取り組むことができた。	総合三科目のねらいや本質について教師自身も十分に理解し、共通認識を持って授業の指導に当たることが大切である。単元ごとに生徒に身につけるべき力を担当者と確認しながら指導にあたりたい。特に問いの設定や検証作業の方法については大学の先生など外部の方に講評していただくなど工夫していきたい。
	15	生徒会活動やホームルーム活動では主体的に活動している。	2.5	3.5	B	1.9	2.7	C	3.0	4.2	A	2.4	3.3	C	生指	行事等の活動やより良い学校にしていくなためにといった内容について生徒との関わりを増やし、生徒が主体的に考えることができるよう働きかけることに努めた。	教員、生徒、家庭が協力しより良い学校づくりを進めていきたい。そのために生徒との日常の関わりだけでなく、アンケート等の意見も参考にしながら前に進んでいけるよう話し合って進めていきたい。
	16	体育大会や文化祭等の行事に積極的に取り組んでいる。	3.2	4.5	A	3.1	4.3	A	3.1	4.3	A	3.2	4.4	A	生指	学校として新たな取り組みにもチャレンジし、概ね良い方向に進んでいると感じた。	日常の延長として、生徒がいきいきと自分を表現できるような行事を創るため、コミュニケーションを取りながらより良いものにしていきたい。
生活習慣	17	集会などを通して、学校や学年の生徒指導方針がよく説明されている。	3.0	4.2	A	2.5	3.5	B	3.1	4.3	A	2.9	4.0	A	生指	各年次とも風通し良く指導を進めることができた。家庭との連携をさらに進めたい。	学校や生徒の成長にとって何が大切かを、事あるごとに考え、必要あれば変えていくことと想いをしっかり伝えたり、生徒の話を聞いたりなど、さらに深く取り組んでいきたい。
	18	基本的な生活習慣が身に付いている。	3.1	4.3	A	2.9	4.1	B	3.0	4.2	A	3.0	4.3	A	生指	学校全体として基本的な生活習慣が大切であることは伝えていると感じる。	生活習慣が大切であることをどう伝えるのかや整わない生徒に対するサポートを教員だけでなく生徒・家庭と連携し取り組んでいきたい。
人権	19	保健室・教育相談室など、悩み事を相談できる体制が整っている。または、親身になって相談に乗ってくれる先生がいる。	2.9	4.1	B	2.2	3.1	B	3.2	4.5	A	2.7	3.8	B	保健	保健だよりの裏面を「カウンセリングだより」として、カウンセリング案内を掲載したことが、生徒の利用者増加につながった。	悩みを抱える生徒の早期発見と迅速な対応のために、引き続き家庭や専門機関とも連携して取り組みたい。
	20	いじめのない学校づくりが進められている。	3.1	4.3	A	2.1	2.9	C	3.2	4.5	A	2.9	4.0	A	生指	いじめアンケートや日常の観察等がいじめに対するアンテナを高くしようと努めた。	いじめはどこでも起こるものだとし、学校全体でいじめ防止・早期発見対応を行えるよう努める。教員だけでなく生徒・保護者等みんなで雰囲気作りから取り組みたい。
	21	色々な授業や行事を通じて、命と人権を大切にする教育が行われている。	3.1	4.3	A	2.4	3.4	B	3.1	4.3	A	2.9	4.1	A	人権	R6年度は、学校全体の人権のテーマを「震災と災害弱者」として取り組んだ。今年度は地震が比較的頻繁に発生し、生徒も身近な問題として意識していたこともあり、一人一人が積極的に考えることができたのではないだろうか。	今年度は、人権LHRの中でクラス全員が参加できるアクティビティーのような内容もあり面白かったようなので、来年度も少しでも工夫を加えた授業案を提示できるようにしたい。